

平成30年度 事業報告

◎ 事業報告の概要

平成30年度においては、地域に開かれた市民から必要とされる社会福祉協議会を目指し、これまで取組んでまいりました住民参加、協働による地域に根差したボランティア育成事業、成年後見支援センターの運営、介護保険事業や総合支援事業を中心とした、各福祉サービスの提供や相談支援事業等の充実に努めました。

また、平成30年度から5年間の計画として、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取組むため、社会福祉協議会としての使命や経営理念、経営方針、人材育成等を定めた第2期岩見沢市社会福祉協議会発展強化計画を策定しました。

以下、平成30年度事業計画に沿った推進項目について報告します。

1 組織の強化と人材の育成

社会福祉協議会としての役割を果たし、安定的かつ持続的な財源の確保や将来を見据えた人材の育成を図り、地域福祉を専門的な視野で捉えるため、役職員が積極的に各種研修会や講習会に参加できる体制づくりに取り組んだ。

【主要な取組】

- (1) 将来の社協像を見据え、社協としての使命や経営理念、人材育成等を定めるため、第2期岩見沢市社会福祉協議会発展強化計画を策定した。
- (2) 法を遵守し、福祉サービスを供給する体制の整備及び充実に図り、事業運営の透明性の向上性及び財務規律の強化や介護人材の確保等適正な業務の執行に努めた。
- (3) 役職員が各種研修会や講習会などに積極的に参加し、資質向上に努めるとともに、内部連絡会などを通じて職員間の共通意識を高め、資質の向上に努めた。

① 職員研修（内部）

- ・ケアマネージャー内部研修
- ・ホームヘルパー内部研修
- ・社協連絡会
- ・ボランティアセンター定例会
- ・メンタルヘルス研修（2回）

② 職員研修（外部）

- ・生活福祉資金貸付事業研修会
- ・成年後見市町村職員セミナー
- ・介護支援専門員研修会
- ・北海道主任介護支援専門員更新研修
- ・地域における権利擁護システム構築セミナー

- ・災害ボランティアコーディネーター養成・資質向上研修会
 - ・意思決定シンポジウム
 - ・法人後見従事者養成研修 in 札幌
 - ・権利擁護従事者研修会
 - ・シンポジウム「広域連携による成年後見制度利用促進」市民のための新しい成年後見制度を目指して
 - ・市町村成年後見センター等連絡会議
 - ・全道福祉の学習セミナー
 - ・働き方改革関連セミナー
 - ・社会福祉法人向け働き方改革実務実践セミナー
- ③ 役員研修
- ・法人役員専門研修（社会福祉協議会）
 - ・地域の絆と支え合い活動空知地区推進セミナー
 - ・北海道社会福祉大会
 - ・地域に理解され支持される社協づくり研修
 - ・管内社協介護保険事業等学習会
- ④ 人材育成研修
- ・権利擁護人材育成セミナー
 - ・法人後見支援員スキルアップ研修会
 - ・ボランティア強化セミナー
 - ・コミュニティーソーシャルワーク実践者養成研修
- ⑤ 社協関連会議
- ・空知管内社会福祉協議会連絡協議会理事会総会及び会長事務局長会議
 - ・全道市町村社協新任会長、事務局長研修会
 - ・全道市町村社協会長、事務局長研究協議会
 - ・空知地区社協職員連絡協議会運営委員会、研修交流会
 - ・南空知ブロック市町村社協事務局長会議
 - ・全道社協職員研究協議会
 - ・空知地区社協職員連絡協議会スキルアップ研修会
 - ・南空知社会福祉協議会連絡会会長・事務局長会議
 - ・空知管内社会福祉協議会会長、事務局長会議
 - ・全道市町村社協事務局長連絡会議
- ⑥ 外部団体参画会議
- ・岩見沢市防災会議
 - ・岩見沢市子育て支援推進会議
 - ・防災事務担当者会議
 - ・南空知保健医療福祉圏域連携推進会議
 - ・南空知圏域感染症予防研修会

- ・岩見沢市消費者被害防止ネットワーク定例会議
- ⑦ その他
 - ・安全運転管理者講習会
 - ・ボランティア愛ランド北海道 2018
 - ・共同募金委員会関係者研究協議会等に参加・受講し専門性の確保と資質向上に努めた。

2 広報活動の強化・充実

(1) 「社協だより」の発行

地域福祉活動の取組について、広く市民に理解を得るため、「社協だより」の紙面の工夫や内容の充実を図り、全世帯に配付、当会事業の理解と福祉情報等広く周知した。

□発行回数 年3回(7・12・3月)

□発行部数 各回35,000部

(2) ホームページを活用した情報発信

社会福祉協議会事業計画や事業報告、予算、決算等関係書類、附属明細表等について情報発信するとともに、各種事業の取組や講座開催などの情報をいち早く提供した。

(3) 社協パンフレットの作成【新規事業】

市民の社協事業に対する認知度を高めるため、パンフレットを作成し、市内公共施設や民生委員児童委員等に配布し、当会の役割と活動の理解促進に努めた。

□作成部数 1,500部

(4) 会員の加入促進、共同募金の趣旨啓発

社会福祉に対する市民理解を深めるとともに、安定的かつ持続的な財源を確保するため、会員の加入促進、共同募金の趣旨啓発を図り、寄附金による社会貢献活動への理解に努めた。

また、岩見沢市共同募金委員会作成のピンバッジを利用し募金の増収に努めた。

内 容		金 額
香典返し寄附金	29件	937,000円
一般寄附金	38件	1,094,112円
一般会員(1世帯年額 100円 227町会 26,968世帯)		2,696,720円
特別会員(1口年額 5,000円 47団体 73口)		365,000円
賛助会員(1口年額 1,000円 348人 513口)		513,000円
企業会員(1口年額 10,000円 35社 39口)		390,000円
共同募金	赤い羽根共同募金	8,000,656円
	歳末たすけあい	7,372,775円

3 社会福祉功労者表彰の実施及び推薦

地域福祉活動及びボランティア活動に永年にわたり功労のあった個人・団体や当会に多額の寄附をされた方、市内の福祉団体・施設において永年にわたり勤務された方に対して、その功績を讃え、功労者表彰を実施した。

また、活動を通じて社会福祉に貢献された市内各社会福祉関係者及び団体を岩見沢市の福祉活動功労者表彰をはじめ、北海道社会福祉協議会会長表彰などへ推薦を行った。

(1) 岩見沢市社会福祉協議会 社会福祉功労者表彰 (敬称略)

功績表彰	善行感謝	ボランティア 功労賞	永年勤続表彰	功労表彰
田中勝久 中村 實 矢野美恵 藤井良子	加藤 隆 小西良美 中村耕治 中野邦江 西川幸男 金野徳夫 伊藤悦子 甲田孝子 非公開 1人	佐藤瑞子 松本徹也	中村久子 山家晴美 深川順子 村井公威 小野菜穂子 西 ゆみ子 白木美江 山田昌亨 澤井清人 太田口真紀 浦口恵子 加藤 葵 奥野可南 泉 絢輔 及川泰輔 松林 亜由美 沖本景一 堀 美香 嶋村美江子 中井一仁 岩田卓也 二階堂志穂 橋爪由美 木村 雄	三宅睦男

□10月30日・功績表彰 (4人)・善行感謝 (9人)・ボランティア功労賞 (2人)
・永年勤続表彰 (24人)・功労表彰 (1人)

- (2) 岩見沢市福祉活動功労者
大谷 ヒサ子・島 捨夫・芳賀 幸子・檜野 柚子・祁答院三千子
幌向ボランティアこのゆびとまれ
□10月5日 岩見沢市文化センター中ホール
- (3) 北海道社会福祉協議会会長表彰
田邊 留男・田村 泰二郎・森 公子（民生委員・児童委員功労）
青柳 州明（社協職員）
□8月28日 北海道社会福祉大会席上
- (4) 北海道共同募金会会長表彰
内海 泰子・松田 美羽音・嵐 幸雄（永年勤続奉仕者）
工房こぶし・いこい（共同募金運動優秀団体）
□8月28日 北海道社会福祉大会席上
- (5) 北海道知事表彰
土肥 勝子・宮本 茂（民生委員・児童委員功労）
在宅介護ボランティア輪っこの会（地域活動推進功労者）
□8月28日 北海道社会福祉協議会席上
- (6) 全国社会福祉協議会会長表彰
清水 ヨシ子（社会福祉協議会・民間社会福祉団体功労）
穴田 和枝（民生委員・児童委員功労）
□11月22日 全国社会福祉大会席上
- (7) 道新ボランティア奨励賞
ボランティアサークル「ひとみの会」
□10月21日 小樽市民会館
- (8) 公益社団法人社会貢献支援財団
若松地区町会連絡協議会「若松地域給食ボランティア」（社会貢献者）
□11月26日 帝国ホテル東京

4 日常生活用具の助成・物品貸出事業

(1) 愛情銀行運営事業

日常生活を営む上で、生活用具が必要と認められた方に廉価で交付または助成を行った。

また、市民の温かい善意と思いやりによる金品の寄附及び預託を受け、真に必要とする方々への交付提供を行った。 別紙資料

□杖助成 11人

□アイスピック助成 12人

(2) 車椅子の貸出

傷病等の理由により一時的に車椅子が必要になった方や、彩花まつり、ふるさと百餅祭り等のイベントに車椅子を貸出し、日常生活の質的向上や社会参加の促進、在宅介護への負担軽減に努めた。

また、小・中・高等学校の福祉体験学習にも貸出しを行い、効果的な福祉教育に活用した。

□車椅子貸出状況

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
件 数	119 件	112 件	106 件	112 件	94 件
台 数	233 台	222 台	232 台	180 台	185 台

5 施設の適正な管理運営

岩見沢広域総合福祉センターについては、地域福祉活動の拠点施設として活用されるよう、福祉・ボランティア団体等の利用者の利便性向上に努めた。

また、岩見沢市から指定管理者として管理や運営を実施している「岩見沢市高齢者福祉センター」、「岩見沢市栗沢福祉団体活動センター」、「栗沢・美流渡デイサービスセンター」については、公共施設としての設置目的を踏まえながら、利用者にとって親しみやすい施設となるよう、適正な管理運営に努めた。

(1) 岩見沢広域総合福祉センター

① 開館時間及び休館日

(ア) 開館時間 午前 9 時～午後 9 時まで

(イ) 開館日数 335 日

(ウ) 休 館 日 毎月第 2、第 4 日曜日及び 12 月 29 日～翌年 1 月 3 日まで

② 消防避難訓練等の実施

(ア) 消防避難訓練 6 月 21 日

(イ) 消防避難訓練及び防災訓練 11 月 7 日

③ 施設の改修・修繕

(ア) 暖房ボイラー部品交換

(イ) 非常口ドアガラス取替

(ウ) 広域総合福祉センター硝子ブロック修繕

(エ) 研修室 1 ドアクローザー取替

(オ) 視覚障がい者用歩行誘導マット敷設

④ 年度別利用人員及び年度別年間使用料収入状況

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
利用人員	47,693 人	47,583 人	46,003 人
1日平均利用人数	142.4 人	142.0 人	137.3 人
使用料収入	1,140,960 円	975,620 円	983,450 円

⑤ 年度別用途別利用数

(単位：件)

区分	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	有料	無料	有料	無料	有料	無料
会 議	101	193	59	154	59	368
集 会	3	13	5	18	2	2
講 習	10	113	18	124	165	209
研 修	28	59	31	64	37	79
例 会	349	395	334	349	167	201
そ の 他	41	479	37	604	24	423
小 計	532	1,252	484	1,313	454	1,282
社協・町連 母子寡婦福祉会 更生保護サポートセンター	561	1,554	648	1,361	414	1,378
合 計	3,899		3,806		3,528	

(2) 岩見沢市高齢者福祉センターふれあい（指定管理施設）

①開館日及び利用時間

受 託 日	平成 26 年 4 月 1 日
開 館 日	月曜日～土曜日まで
開 館 日 数	291 日
利用時間帯	午前 9 時～午後 5 時まで（入浴時間は正午から午後 3 時まで）

②平成 30 年度利用者数

区 分	一般		部会等		合計	
利 用 人 数	18,787 人		19,819 人		38,606 人	
男女別利用人数	男性	10,306 人	男性	9,698 人	男性	20,004 人
	女性	8,481 人	女性	10,121 人	女性	18,602 人
1 日 平 均	64.6 人		68.1 人		132.7 人	

③平成 30 年度趣味と教養部会利用状況

部会名	利用回数	利用人数	部会名	利用回数	利用人数
カラオケ部会	37 回	2,675 人	太 鼓 部 会	42 回	352 人
民謡・伴奏部会	33 回	236 人	民謡踊部会	45 回	827 人
俳句部会	11 回	74 人	華道部会	18 回	200 人
ひやっぴーサークル	16 回	64 人	コスモスの会	14 回	67 人
卓球部会	49 回	2,712 人	ふまねっと部会	23 回	300 人
書道部会	47 回	446 人	こぶしクラブ	49 回	868 人
手芸部会	39 回	318 人	いきいきサークル	41 回	653 人
木彫部会	41 回	213 人	陶芸部会	184 回	3,161 人

剣詩舞吟遊会	25回	176人	囲碁同好会	241回	3,727人
ダンス部会	44回	713人	将棋愛好会	241回	1,677人
茶道部会	24回	167人	小計	1,283回	19,689人
謡吟会	19回	63人	オモチャの病院	47回	130人
合計				1,330回	19,819人

④主な行事

(ア)趣味と教養部会

内容	発表部会数	展示数・発表数	人数
展示発表	6部会	313点	
舞台発表	6部会	23演題	358人
呈茶席			100人
ふまねっと体験教室			20人
合計			478人

(イ)その他

行事名	開催年月日	参加人数
土曜初心者陶芸教室	5, 6, 10月	延7人
ビデオ映画上映会	7, 9, 11, 3月	延40人
健康相談	5, 9, 2月	延167人
ふれあいコンサート・カラオケの集い	5, 6, 7, 9, 11, 3月	延117人
高齢者福祉センター「ふれあいまつり」	8月4日	505人
移動心配ごと相談所	8月22日	0人
センター大掃除	12月14日	131人
お楽しみ会	12月15日	49人
市老連女性部軽いリズム体操	2月1日	58人

(3) 岩見沢市栗沢福祉団体活動センター（指定管理施設）

受託日	平成26年4月1日
営業日	月曜日～金曜日まで（祝日を除く）
開館日数	244日
時間	8時30分～17時15分まで
利用人数	年間2,076人 1日平均 8.5人
職員配置	嘱託職員1人（支所業務と兼務）
利用団体	・栗沢更生保護女性会・岩見沢市老人クラブ連合会栗沢地区協議会 ・いちいの会・すみれの会・補修ボランティア ・岩見沢市赤十字奉仕団 29班 計6団体

(4) 栗沢・美流渡デイサービスセンター（指定管理施設）

名 称	栗沢デイサービスセンター					美流渡デイサービスセンター	
受託日	平成26年4月1日					平成26年4月1日	
区分	指定通所介護・第一号通所介護事業（予防通所介護相当）【通常規模型】					指定地域密着型通所介護・第一号通所事業（指定予防介護相当）	
定員	月～金曜日 30人(1単位目) 土曜日 20人(2単位目)					1日 8人	
利用人数		年間	月～金	月、火、木、金	土		年間
	営業日数	305日	254日	231日	51日	営業日数	147日
	実人数	691人				実人数	133人
	延人数	5,441人	4,715人	4,715人	726人	延人数	862人
	1日平均		18.6人	20.4人	14.2人	1日平均	5.9人
職員登録人数 (3月31日現在)	管理者（兼務） 1人 生活相談員 3人 介護員 0人 臨時介護員 7人 臨時看護師 4人 臨時運転手 4人					管理者（兼務） 1人 生活相談員 3人 臨時介護員 2人 臨時看護師 2人	
サービス提供時間帯配置基準	月～金曜日 職員配置基準9人 土曜日 職員配置基準6人					月～金曜日 職員配置基準3人	
営業日	月曜日から土曜日（祝日を含む） （日曜日及び12月31日から1月3日まで休業）					月曜日から金曜日（祝日を除く） （土・日曜及び12月31日から1月5日まで休業）	
時間	8時30分から17時45分まで 【提供時間帯】 9時15分～16時30分の7.25時間					8時30分から17時15分まで 【提供時間帯】 9時45分～15時15分の5.5時間	
介護内容	日常生活上の援助 （排泄の介助、移動の介助、その他必要な身体介護） 入浴の介護、機能訓練、送迎、食事の介助、相談・助言、 介護の指導、運動機能向上訓練						
利用料	介護報酬の告示額による ・法定代理受領分(国保連合会) ・法定代理受領分以外(個人負担)						
その他の費用	食費(1回につき590円)、行事食(1回につき640円) お茶・おやつ代(1回につき100円) オムツ代(実費)、その他通常必要なもの						
区域	岩見沢市全域					岩見沢市の一部地域 （朝日町、奈良町、毛陽町、 栗沢町美流渡、栗沢町万字）	

6 地域福祉の推進

地域福祉活動計画に基づき、多様化する福祉課題・生活課題の解決に向けた福祉サービスの提供、ボランティアの養成及び地域のつながりを深める地域ふれあいサロンの普及を行い、地域活動の活性化を図り、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりの推進に努めた。

(1) 地域住民の声を反映できる課題把握と情報共有

①実施事業からのニーズ調査

各実施事業・講座ごとにアンケート調査を行い、ニーズに沿った事業展開や講座内容の充実を図るため、検討を行った。

□アンケート実施回数「地域ふれあいサロン研修交流会」他 12回

(2) 相談支援体制の充実

①心配ごと相談事業

市民の日常生活上の困りごとの解決や軽減に向けた助言、専門機関等への橋渡しを行い、心配ごとの早期解消に努めた。

また、地域の方々が気軽に相談できるよう、市内各所で移動心配ごと相談所を開設した。

□計6回実施 相談件数0件（電話対応3件）

開設日	会場	開設時間
4月18日	美流渡コミュニティセンター	13時30分～15時30分
6月21日	高齢者福祉センター「えみる」	13時30分～15時30分
8月22日	高齢者福祉センター「ふれあい」	13時30分～14時30分
10月17日	高齢者福祉センター「えみる」	13時30分～15時30分
12月19日	栗沢文化センター	13時30分～15時30分
2月20日	幌向総合コミュニティセンター	13時30分～15時30分

②民生委員・児童委員との連携

民生委員・児童委員に「ふれあい相談員」を委嘱し、地域の身近な「相談窓口」として、相談支援の促進を図った。

③各相談機関等との連携強化

様々な相談に対応するため、各相談機関の会議等に参加し、他の機関との連携強化に努めた。

□出席回数 30回「岩見沢市高齢者虐待防止ネットワーク会議」他

(3) 地域住民と共に進める支え合い活動や交流活動の促進

①小地域福祉ネットワーク活動事業

小地域（ふれあい推進協議会・地区協議会・町会等）を基盤として展開する、地域住民による見守り、安否確認活動や身近の世話等の日常生活支援活動に対し

て助成を行い、地域における支え合い活動の活性化に努めた。

□助成金 2,909,720 円

②地域福祉活動費助成事業

地域住民の主体的な福祉活動に対して活動助成を行い、地域コミュニティ活動の活性化を図った。

□助成金 20,000 円 緑町内会「独居高齢者安心安全事業」

□助成金 20,000 円 利根別第三町内会「三世代交流餅つき大会」

③地域除排雪活動支援事業の実施（岩見沢市委託事業）

自力で除雪が困難な独居高齢者世帯や身体障がい者世帯等の要援護者世帯に対し、地域のボランティアによる玄関間口の除排雪活動に助成支援を行い、地域住民同士の支えあい活動の充実を図り、冬期間における要援護者世帯の日常生活の安全確保に努めた。

□対象世帯 1,284 世帯 助成金 6,747,000 円

④除雪ボランティア派遣事業

自力で除雪が困難かつ家族や親類または町会・自治会からの協力が得られない高齢者世帯や身体障がい者世帯などの要援護者世帯に対して除雪ボランティアを派遣し、間口の拡幅や暖房器具の給排気筒等付近の除雪支援を行い、日常生活の安全確保に努めた。

□登録数 個人 5 人・4 団体（58 人）

□支援世帯数 延べ 52 件・活動者数 延べ 152 人

⑤地域ふれあいサロン事業

高齢者や障がい者及び子育て中の親子など、外出の機会が少ない方々の閉じこもり予防と安否確認や生活課題の把握等を目的に、世代を超えた誰もが参加できる地域交流活動に対して助成支援を行い、事業の普及に努めた。

□登録サロン数及び助成金額

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
登録サロン数	24 団体	21 団体	26 団体	29 団体	33 団体
助 成 金 額	578,000 円	414,000 円	588,000 円	682,000 円	782,000 円

※平成 30 年度新規サロン団体（4 団体）

- ・脳はつらつサロン カーネーション（美園一心町会）・ふじ町ふれあいサロン
- ・美流渡ふれあいサロン・こんにちはお茶呑み会（幸町会）

⑥地域ふれあいサロン活動者情報交換会の開催

地域ふれあいサロン実践者を対象に、各サロン活動上の課題や活動内容について情報の交換や共有を図り、サロン活動に対する理解をより一層深めた。

□10 月 4 日 参加者 39 人

⑦地域ふれあいサロン研修交流会の開催

サロン活動に活用できる体験演習やグループ交流などを通して、サロン活動内容の充実と実践者同士のネットワークを構築し、今後の活動の更なる充実を図っ

た。

□2月8日 参加者 26人

⑧認知症サポーター養成講座の開催

認知症への正しい理解を深め、地域の認知症高齢者を支援するサポーターの養成を図った。また、歩行機能改善や認知機能の低下予防が期待される、ふまねつと運動の体験教室を開催した。

□12月12日 受講者 15人

⑨レクリエーション用具貸出事業

町会・自治会、ボランティア団体及びふれあいサロン等に紅白玉入れや童話かるたなどのレクリエーション用具の貸出を行い、地域交流の促進と活性化に努めた。

□貸出件数 延べ34件

⑩福祉団体等の活動支援

障がい者等の福祉団体へ活動費助成を行い、団体の使命や特徴を活かした活動の活性化に努めた。

□福祉団体助成 8団体 260,000円

⑪やさしい在宅介護講習会の開催

在宅介護に係る講話や一般的な介護方法等について演習等を行い、家庭や地域で孤立することなく豊かな生活を送るための一助として、介護知識・技術の向上及び在宅で介護に取り組む方々の日常の悩みや負担の軽減に努めた。

□9月25日～10月2日 参加者 6人

⑫男性のための料理教室の開催

男性が「食」に興味をもち、自分で作る楽しさやバランスのとれた食事の重要性と料理を通しての仲間づくりと家庭生活における自立支援を図った。

□11月6日 参加者 15人

⑬高齢者趣味と教養・健康増進支援事業

岩見沢市老人クラブ連合会が主催する各種事業に対し助成を行い、高齢者が個々の技能や趣味を活かした社会参加活動を通じ、仲間づくりや生きがいの場づくりが図られた。

□ 5月19日 岩見沢市高齢者文化祭
助成金 30,000円 ステージ発表者 517人
作品展示品 305点

□ 7月21日 岩見沢シニア交流大会
助成金 80,000円 参加者 657人

□ 11月16日 囲碁将棋大会
助成金 20,000円 参加者 36人

⑭金婚祝賀会開催事業

結婚生活50年を迎えるご夫婦を招待し、7月30日、岩見沢平安閣にて「第45回金婚を祝う会」を開催した。

□該当者 186組 372人 出席者 89組と 5人 計 183人

(4) 地域福祉への理解促進

①地域福祉活動推進セミナーの開催

地域福祉活動関係者を対象に、福祉活動を進めるうえで必要な要支援者の情報入手や関係者間の情報共有をスムーズに行うため、個人情報保護法の正しい認識、適切な取り扱いについて理解を深め、地域福祉活動の促進に努めた。

□2月28日 参加者 49人

② 地域福祉出前講座

町会・自治会をはじめとする福祉団体等からの要望に沿って、当会職員等が講師となり「地域福祉出前講座」を実施し、地域住民の福祉に対する理解や関心を深めた。

□出前件数 9件

□内 容 「車いす体験について」他

(5) ボランティアセンターの機能充実

①ボランティアセンター運営事業

市民から寄せられるボランティアに係る相談支援やボランティア派遣のコーディネートを行うとともに、ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、情報提供等を行い、ボランティア活動の促進に努めるとともに、ボランティアセンター運営委員会及び運営部会を開催し、各関係機関等との協力関係を深め、ボランティアセンター運営の充実に努めた。

また、ボランティアセンター運営体制の充実を図るため、広報紙「社協だより」やボランティアセンター広報紙「おもいあい」を活用し、ボランティアセンタースタッフの募集を行った。

□運営委員会の開催（年2回）

□運営部会の開催（随時）

□定例会の開催（月1回）

(ア) ボランティア登録団体・個人数

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
登録団体数	25 団体	27 団体	26 団体	27 団体	27 団体
登録個人数	9 人	10 人	17 人	14 人	16 人

(イ) ボランティア相談・連絡調整件数

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
相談件数	38 件	27 件	23 件	19 件	41 件
連絡調整件数	10 件	8 件	14 件	15 件	16 件

(ウ) ボランティア派遣支援

車いす介助、視力障がい者介助及び手話通訳等のボランティア派遣を行い、高齢者や障がい者などその家族の日常の負担軽減を図った。

□派遣人数 延べ 100 人

②広報紙「おもいあい」の発行

ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、ボランティアセンター広報部会によるボランティアセンター広報紙「おもいあい」を市内の公共機関等に設置し、ボランティア情報及び活動の周知啓発に努めた。

□発行 年 3 回発行 (6 月号・12 月号・3 月号)

□発行部数 各回 1,500 部

③各種研修事業への参加促進

各種研修会等に参加し、ボランティアに係る先進的事例等の情報収集、研修、他のボランティア活動者との交流を深め、ボランティア活動者の資質向上及びボランティアネットワークの促進を図った。

開催日	研修会等名	参加者数
10 月 21 日	ボランティア愛ランド北海道 in2018 おたる	26 人
11 月 2 日	平成 30 年度空知地区ボランティア活動推進会議	2 人
	平成 30 年度空知地区ボランティア活動推進セミナー	53 人
12 月 6 日	平成 30 年度ボランティア強化セミナー	4 人
1 月 10 日	平成 30 年度全道福祉の学習推進セミナー	3 人

(6) 地域を支えるボランティアの育成

①各種ボランティア養成講座の開催

ボランティア活動に興味のある方を対象とした、専門分野のボランティアを養成する講座などを開催し、新たなボランティア人材の発掘と育成に努めた。

(ア)手話奉仕員養成講座の開催

聴覚障がいに対する理解促進と聴覚障がい者の社会参加、日常生活を援助する手話奉仕員の養成を行った。

□昼の部 4 月 11 日～12 月 5 日 (全 34 回) 受講者 9 人修了者 7 人

□夜の部 4 月 10 日～12 月 4 日 (全 34 回) 受講者 14 人修了者 11 人

(イ)傾聴ボランティア講座の開催

傾聴についての知識と技術や心構えなどを学び、傾聴に対する理解促進と地域や施設において活動する傾聴ボランティアの養成を行った。

□5 月 22 日～6 月 12 日 (全 4 回) 受講者 14 人

(ウ)精神保健ボランティア講座の開催

精神障がいへの理解を深め、精神障がい者が豊かな地域生活を送ることができるよう、その橋渡し役としての精神保健ボランティアの養成を行った。

□6 月 14 日～28 日 (全 3 回) 受講者 7 人

(エ) 点訳ボランティア講座の開催

視力障がい者に対する理解と点訳についての知識と技術等を学習し、視力障がい者を支援する点訳ボランティアの人材育成を図った

□6月20日～7月4日（全3回）受講者 9人

(オ) はじめてのボランティア講座（中止）

参加者が1人しか集まらず、はじめてのボランティア講座を中止したが、参加希望者の1人の方に対し、ボランティア活動に対する基本的な知識や車いす介助体験演習を行った。

□7月20日

(カ) ボランティア活動者交流会の開催

ボランティアセンター登録団体及び個人の活動者の情報交換、交流を通し様々な分野でのボランティア活動の状況を把握し、今後の活動のネットワークづくりを図った。

□6月26日 参加者 91人

(キ) ボランティア活動者研修会の開催

ボランティア活動者が一堂に会し、地域に根付いたボランティア活動のあり方を学び、スキルアップを図り、今後のボランティア活動の充実を図った。

□2月19日 参加者 73人

(ク) ボランティアの活動支援事業

登録ボランティア団体・個人が安心して活動するために、ボランティア活動保険料の助成やボランティアに関する情報提供を行い活動の促進を図った。

さらに、被災地支援ボランティア活動者に対して保険料の助成を行い、被災地復興ボランティア支援の促進を図った。

□ボランティア団体助成 17団体 170,000円

□ボランティア活動保険 個人164人（一般19人・災害145人）
27団体（523人）

□ボランティア行事用保険 1団体（30人）

(7) 将来を見据えた福祉教育の推進

①学童・生徒のボランティア活動普及事業

小・中・高等学校の学童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、実践活動によりボランティアの心と社会連携の精神を養うことを目的に、各学校に対し福祉教育のボランティア活動実践活動費の助成支援を行った。

□小・中・高等学校28校 助成金700,000円

②児童・生徒のボランティア体験研修会の開催

中・高等学校の生徒を対象に、障がい当事者やボランティア活動者をはじめ様々な分野で活動している地域活動者との協働の機会を創出し、ボランティア意

識の醸成に努めた。

平成 30 年度は、障がい者や高齢者など誰もが取り組み、楽しむことができるアダプテッド・スポーツやレクリエーションの体験を通して、高齢者や障がい当事者の理解と思いやりの心の育成を図った。

□8月7日 参加者 47人

③指定地域福祉教育セミナーの開催

教育関係者を対象に、専門的な講師による講話や学校におけるボランティア活動実践発表等を通じて、福祉教育に関する今後の在り方や方向性等について研修を行い、福祉教育の充実を図った。

□1月28日 参加者 15人

④地域福祉教育推進事業

学校からの福祉体験学習の要請に応じ、障がい当事者及びボランティアを講師派遣し、効果的な学習を実施することで、ノーマライゼーションの理念普及に努めた。

□派遣人数 132人

【福祉体験学習実施状況】

	実施日	学校人	学年・人数	実施内容
1	9月11日	北真小学校	5年生23人	視覚障がい者の講話・ガイドヘルプ体験
2	9月19日	北真小学校	5年生23人	車いす利用者との交流・車いす体験
3	9月20日	月形小学校	3年生23人	聴覚障がい者の講話・手話体験
4	9月25日	日の出小学校	2年生57人	聴覚障がい者の講話・手話体験
5	11月1日	西高等学校	3年生40人	聴覚障がい者の講話・手話体験
6	11月7日	北真小学校	6年生11人	高齢者疑似体験
7	11月8日	日の出小学校	4年生62人	車いす利用者との交流・車いす体験
8	11月10日	メープル小学校	全校生19人	聴覚障がい者の講話・手話体験
9	11月13日	日の出小学校	3年生54人	視覚障がい者の講話・ガイドヘルプ体験
10	11月27日	緑中学校	全校生245人	視覚障がい者の講話・ガイドヘルプ体験
11	12月10日	栗沢小学校	2年生29人 3年生25人	視覚障がい者の講話・ガイドヘルプ体験 聴覚障がい者の講話・手話体験
12	12月11日	日の出小学校	6年生58人	視覚障がい者の講話・点訳体験
13	12月13日	美流渡中学校	全校生9人	車いす利用者との交流・車いす体験
14	12月14日	中央小学校	4年生55人	聴覚障がい者の講話・手話体験
15	12月17日	豊中学校	3年生46人	高齢者疑似体験
16	12月18日	豊中学校	3年生46人	車いす利用者との交流・車いす体験

17	1月24日	第二小学校	4年生12人	聴覚障がい者の講話・手話体験
18	1月25日	第二小学校	6年生25人	高齢者疑似体験
19	1月29日	第二小学校	5年生21人	車いす利用者との交流・車いす体験
20	2月5日	第二小学校	3年生17人	視覚障がい者の講話・ガイドヘルプ体験
21	2月13日	美園小学校	5年生66人	高齢者疑似体験
22	2月15日	栗沢小学校	5・6年生75人	車いす利用者との交流・車いす体験
23	2月26日	第一小学校	5年生67人	車いす利用者との交流・車いす体験
24	2月28日	第一小学校	4年生72人	視覚障がい者の講話・ガイドヘルプ体験
25	3月1日	第一小学校	3年生80人	聴覚障がい者の講話・手話体験
26	3月4日	メプル小学校	3・4年生11人	車いす利用者との交流・車いす体験
27	3月5日	メプル小学校	3・4年生11人	視覚障がい者の講話・ガイドヘルプ体験
	合計	13校	1,282人	

⑤市内高等学校の生徒を中心としたボランティア活動への支援や協力

農業高校ボランティア・ユネスコ部、緑陵高校ボランティア部、東高校ボランティア部、西高等学校生徒会執行部、高等養護学校生徒会執行部の5高校の生徒が行う「第7回復興支援東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」に協力をを行い、高校生のボランティア活動や社会参加活動についての取組みを支援した。

8月9日 札幌地下歩行空間

8月26日 大和タウンプラザ

□寄付金額 405,350円

(8) 地域における権利擁護の推進

①日常生活自立支援事業の実施（北海道社会福祉協議会委託事業）

認知症、知的障がい及び精神障がい等により、判断能力が不十分で日常生活に支障のある方に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の支援を行い、日常生活の自立支援に努めた。

(7) 利用契約者件数

区分	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計
相談件数	523件	157件	189件	0件	869件
新規利用契約件数	9件	1件	2件	0件	12件
解約件数	4件	0件	2件	0件	6件
利用契約件数	11件	2件	5件	0件	18件
生活支援員数	29人（実働14人）				
社協預かり	通帳8冊・印鑑1本				

(イ) 生活支援員研修会の開催

内 容	開 催 日	出席者数
講義、演習「利用者理解を深めるためには」 講師 北海道総合福祉研究センター 事務局長 池田 ひろみ 氏	平成 31 年 3 月 4 日	14 人

(ウ) 北海道地域福祉生活支援センター指揮監督者・自立生活支援専門員・生活支援員研修会【空知地区】への出席

内 容	開 催 日	出席者数
説明 「日常生活自立支援事業のあらまし」 説明者 北海道社会福祉協議会 生活支援部 権利擁護課 講義 「精神障がい者への対応に必要な視点」 講師 (公財) 北海道精神保健推進協会/ 就労継続支援 B 型事業所 ここリカ・プロダクション 管理者 橋本 達志 氏 分科会 1 <指揮監督者、専門員対象> 説明 「日常生活自立支援事業におけるイン シデントを防ぐ対応」 進行 北海道社会福祉協議会 生活支援部 権利擁護課 分科会 2 <生活支援員対象> 意見交換「生活支援員業務について」 進行 北海道社会福祉協議会 生活支援部 権利擁護課	平成 30 年 11 月 5 日	職員 3 人 生活支援員 7 人

② 市民後見推進事業・成年後見制度普及啓発事業の実施(岩見沢市委託事業)

誰もが住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせる地域づくりを目指すため、認知症や知的・精神障がい等により判断能力が十分でない方が成年後見制度を適切に利用できるよう成年後見支援センターの安定的かつ適切な運営に努めた。

また、市民後見人の活動支援として法人後見事業を実施し、関係機関、専門職、行政等との連携のもと、法人後見支援員と協働し、要支援者への適切な身上監護、財産管理を行った。

その他、市民の成年後見制度に対する理解や関心を高めるため、普及啓発に関する取り組みを行った。

【成年後見支援センターの具体的な取組】

(ア)相談・申立手続支援実績

相 談 状 況	新規相談	96 件	計 409 件
	継続相談	313 件	

相 談 内 容	法定後見	313 件	計 480 件
	任意後見	8 件	
	日常生活自立支援事業	30 件	
	相続・遺言	12 件	
	市長申立	25 件	
	介護・福祉サービスの手続き	2 件	
	財産管理	28 件	
	借金	15 件	
	その他	47 件	

(イ)成年後見支援センター運営協議会・事例検討会の設置・開催

成年後見支援センター事業の適切かつ効果的な実施について、運営協議会を開催し、協議・検討を行った。

また、成年後見支援センターに係る成年後見制度利用及び市民後見人活動の適正な実施について、事例検討会を開催し協議・検討を行った。

会 議 名	開 催 日
第 1 回成年後見支援センター運営協議会	平成 30 年 5 月 31 日
第 2 回成年後見支援センター運営協議会	平成 30 年 10 月 24 日
第 1 回成年後見支援センター事例検討会	平成 30 年 5 月 31 日
第 2 回成年後見支援センター事例検討会	平成 30 年 8 月 1 日
第 3 回成年後見支援センター事例検討会	平成 30 年 10 月 24 日
第 4 回成年後見支援センター事例検討会	平成 30 年 12 月 13 日
第 5 回成年後見支援センター事例検討会	平成 31 年 2 月 22 日
第 6 回成年後見支援センター事例検討会	平成 31 年 3 月 28 日

(ウ)市民後見人の養成と活動支援

・ 市民後見人養成講座の開催

事 業 名	開 催 日	受講者数	修了者数
市民後見人養成講座 (基礎編)	平成 30 年 9 月 1 日～10 月 20 日 毎週土曜日 全 7 日間	18 人	14 人
市民後見人養成講座 (フォローアップ編)	平成 30 年 11 月 8 日～11 月 29 日 毎週木曜日 全 4 日間	15 人	14 人

・法人後見受任状況

新規受任件数	0件
受任終了件数	1件
継続受任件数	5件
累計受任件数	6件

・継続受任件数（内訳）

対象者区分	年代	類型	申立人	居住環境	審判確定日
認知症	80代	後見	岩見沢市長	認知症グループホーム	平成29年2月17日
知的障害	60代	後見	親族	病院	平成29年2月22日
認知症	80代	保佐	本人	病院	平成29年11月9日
認知症	70代	保佐	本人	特別養護老人ホーム	平成29年12月14日
認知症	80代	後見	親族	認知症グループホーム	平成30年1月26日
					計5件

・法人後見支援員の登録と活動状況

法人後見支援員新規登録者数	16人
法人後見支援員全登録者数	32人
法人後見支援員活動者数	10人
法人後見支援員活動回数（延べ）	81回
法人後見支援員活動人数（延べ）	154人
職員活動（連絡調整・訪問等）件数（延べ）	346件

・法人後見支援員登録時研修会の開催

内 容	開 催 日	出席者数
説明 「法人後見支援員の具体的な活動内容について」	第1回 平成30年7月2日	5人
説明者 岩見沢市成年後見支援センター 相談支援員 意見交換	第2回 平成31年3月18日	8人

・第1回法人後見支援員スキルアップ研修会の開催

内 容	開 催 日	出席者数
グループワーク「事例検討で学ぶ成年後見人等の役割と関わり方」 講師 一般社団法人ジャスミン権利擁護センター 代表理事 水戸 由子 氏	平成30年8月6日	13人

・第2回法人後見支援員スキルアップ研修会の開催

内 容	開 催 日	出席者数
講義 「地域包括支援センターの役割と市民後見人に期待すること」 講師 岩見沢市南地区地域包括支援センターセンター長 齋藤 道啓 氏 情報交換会「私たちの活動について語り合おう」	平成31年2月4日	14人

(エ) 普及啓発

・成年後見制度講演会の開催

日 時	平成30年12月8日（土）13時30分～15時30分
開催場所	岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」文化センター中ホール
内 容	DVD上映「自分らしい明日のために ～早見優が案内する成年後見制度～」 成年後見談義「もっと教えて。成年後見制度」 登壇者 やすだ社会福祉士事務所 社会福祉士 安田 昌彰 氏 登壇者 市民後見人 宇土澤 光賢 氏 登壇者 市民後見人 内村 久美子 氏 進行 岩見沢市成年後見支援センター 相談支援員 清水 敬太
参加者数	160人

・成年後見制度パネル展【新規事業】

成年後見制度の内容や役割についてパネルを使用してわかりやすく説明することで、市民が成年後見制度を身近に感じ関心を持ってもらうことと、成年後見制度講演会の周知を図ることを目的に開催した。

開 催 日	平成30年12月3日（月）～平成30年12月8日（土）
開催場所	岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」 1階ホワイエ ※成年後見制度講演会の開催に合わせて実施。

・成年後見制度無料出張相談会【新規事業】

岩見沢市内の各地域に出向く、無料出張相談会を専門職団体の協力・連携のもと、開催し、市民の相談に積極的に応じ、適切に成年後見制度を利用することができるよう支援するとともに、成年後見支援センターの周知に努めた。

担 当 相 談 員	・公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート札幌支部所属 司法書士 金山 靖 氏 ・公益社団法人北海道社会福祉士会権利擁護センター北海道所属 社会福祉士 安田 昌彰 氏
--------------	---

	・岩見沢市成年後見支援センター相談支援員		
開催日	・平成30年8月21日	日の出コミュニティセンター	1人
	・平成30年8月23日	北ふれあいセンター	2人
開催場所	・平成30年8月28日	南コミュニティセンター	3人
	・平成30年10月23日	岩見沢市役所北村支所	1人
相談者数	・平成30年10月25日	岩見沢市役所栗沢支所	0人
	・平成30年10月30日	幌向総合コミュニティセンターほっとかん	4人
			計11人

・出前講座講師対応（依頼テーマ：成年後見制度について等）

団体名	実施日	参加者数
南が丘町内会「はつらつサロン」	平成30年6月8日	8人
特定非営利活動法人パーチェ	平成30年8月27日	8人
岩見沢市介護支援専門員連絡協議会	平成30年8月29日	57人
美園一心町会	平成30年9月12日	13人
幌向第13町内会	平成30年10月3日	22人
幌向町会農業婦人部1班と2班	平成30年12月10日	35人
岩見沢市シルバー人材センター	平成31年3月5日	95人
計7か所		計238人

・その他周知啓発活動

実施事項	部数
成年後見支援センターパンフレット作成・配布	2,000部
成年後見支援センターポスターの作成・配布	40部

(オ) その他

・講師対応

団体名／研修会／テーマ	実施日
空知地区社協職員連絡協議会／平成30年度第1回研修交流会 「成年後見支援センターの取組みについて」	平成30年6月22日
北海道／権利擁護人材養成市町村セミナー（札幌会場） 「岩見沢市の市民後見人養成などに関する取組や課題について」	平成30年7月25日

(9) 生活困窮者等への支援

①生活福祉資金貸付事業（北海道社会福祉協議会委託事業）

他の貸付を受けることができない、低所得者や高齢者、障がい者の世帯に対し、民生委員・児童委員等と連携し、必要な資金の貸付と相談支援を行うとともに

に、岩見沢市生活サポートセンターりんく等の関係機関と連携し、生活困窮者世帯の経済的自立や生活意欲の助長促進を図った。

□貸付件数及び貸付金額

資金名	資金の種類	件数	貸付金額
福祉費	移転設備費	1件	500,000円
	技能習得費	1件	290,000円
	住宅経費	1件	2,500,000円
	緊急小口資金	4件	400,000円
教育支援資金	教育支援資金	1件	1,440,000円
	就学支度費	4件	658,000円
合計		12件	5,788,000円

②愛情銀行緊急生活費交付事業

やむを得ない事情により、緊急に生活費が不足した世帯に対し、緊急生活費の貸付支援を行った。

□1件 5,000円

③緊急食料等給付事業の調査・検討

緊急かつ一時的に生活に必要な食料等が確保できなくなり、生命が脅かされるおそれのある世帯に対し、食料等の現物を給付することにより、生活再建に向けた支援事業について調査・検討した。

その結果、相談ケースの中で食料の現物支給により資金貸付を回避する相談者がいないこと、岩見沢市サポートセンターりんくで食料の現物支給を行っていることから、相談等があった場合はりんくとの連携を進めることとし、緊急食料等給付事業は実施しないこととした。

④法外援護事業

生活保護申請から決定までの生活つなぎ資金及び金銭不所持者等の送還旅費について、市福祉事務所へ助成を行い、市福祉事務所を通じて貸付及び交付を行った。

□生活つなぎ資金 89件 863,000円

□送還旅費 5件 5,200円

(10) 災害ボランティア現地対策本部の組織整備

①災害ボランティア研修会の開催【新規事業】

岩見沢市ボランティアセンター登録者、災害ボランティア事前登録者等を対象に、専門的な講師による講話や北海道版 Do はぐの体験演習を通して、冬季災害を想定した日頃からの備えや心構えや避難所運営支援に必要な知識等を深め、防災意識の向上及び災害時におけるボランティアの確保と資質向上を図った。

□3月14日 受講者 70人

②災害用資機材の整備

赤い羽根共同募金からの助成を活用し、災害ボランティア対策本部の運営に必要な資機材の整備を行った。

□購入品 差し込みベスト 40 着・スマートフォン対応備蓄ラジオ 2 台

□購入金額 128,952 円

□助成金 赤い羽根共同募金（全道・広域配分金）から 105,000 円

③被災地社協への支援

北海道社会福祉協議会から「平成 30 年北海道胆振東部地震」による被災地社協支援に係る職員派遣要請に対して、当会職員 1 人を安平町災害ボランティアセンターに派遣し、被災地支援活動を行った。

□派遣期間 9 月 11 日～9 月 15 日

□派遣職員 生活支援係 書記 瀬野尾 行優

(11) 地域福祉活動計画の進行管理

各担当者・係において、各事業について評価・効果・課題等を明らかにし、事業の見直しや強化等を検討し、平成 31 年度の事業計画及び予算に反映させた。

(12) 共同募金運動への協力

地域福祉活動の財源である共同募金の助成金を確保するため、各種募金活動を実施するとともに、百餅まつりと赤い羽根をコラボした「岩見沢市限定ピンバッジ」を制作し、ピンパッチを活用した共同募金の P R 及び幅広い世代への共同募金の理解促進を図り、共同募金の増収に努めた。

また、平成 30 年に発生した災害の義援金窓口として、募金箱の設置、ポスターやホームページにて義援金の呼び掛けを行うとともに、「平成 30 年 7 月豪雨災害義援金」及び「平成 30 年北海道胆振東部地震災害義援金」に係る募集を、岩見沢市町会連合会と協働し、市内全町会・自治会に対し実施した。

①実績額

区 分	平成 30 年度実績額	平成 29 年度実績額	増 減
赤い羽根共同募金	8,000,656 円	8,183,896 円	△183,240 円
歳末たすけあい運動	7,372,775 円	7,596,909 円	△224,134 円

②災害義援金実績額

災害義援金名	実績額
平成 30 年大阪府北部地震災害	158 円
平成 30 年米原市竜巻災害	0 円
平成 30 年 7 月豪雨災害	3,181,717 円
平成 30 年北海道胆振東部地震災害	2,991,709 円

7 福祉サービス事業の推進

当社が設置している居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業、相談支援事業、障がい児通所支援事業について、新規利用者増に向けて努力し収益増を図るとともに、関係法令を遵守した適正な運営を行い、利用者が安心して満足できるサービスを受けられることができるよう、サービスの質的向上と職員の資質向上に努めた。

近年増加している高齢者虐待ケース等の困難な事例については、地域包括支援センターや市役所等の関係機関と連携し、積極的な支援を行った。

また、発達に遅れや心配のある乳幼児・児童やその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受けることができるよう、各関係機関と連携し支援に努めた。

(1) 居宅介護支援事業

要支援・要介護認定者の居宅サービス計画書（ケアプラン）を作成し、利用者の意向に沿って自立した在宅生活が続けていけるよう介護サービスの調整に努めた。

	平成 30 年度	平成 29 年度	増 減
要介護ケアプラン作成数	3,044 人	3,043 人	1 人
予防プラン作成数	861 人	904 人	△43 人
要介護ケアプラン月平均作成数	253.7 人	253.6 人	0.1 人
予防プラン月平均作成数	71.8 人	75.3 人	△3.5 人

(2) 訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

①訪問介護事業と介護予防・日常生活支援総合事業

日常生活に支障のある高齢者等に対し、介護保険による居宅介護サービス計画に基づき訪問介護員を派遣し、生活習慣や意向を尊重しながら身体介護、生活援助等必要なサービスを適切に提供し、自立した生活支援に努めた。

また、要支援者に対し介護予防・日常生活支援事業による切れ目のないサービス提供により在宅生活の支援に努めた。

	平成 30 年度	平成 29 年度	増 減
利用者数	1,386 人	1,251 人	135 人
延利用回数	10,042 回	9,893 回	149 回
月平均利用人数	115.5 人	104.3 人	11.2 人
月平均利用回数	837 回	824 回	13 回

②居宅介護事業（ヘルパー派遣）

日常生活に支援が必要な身体障がい者及び知的障がい者並びに精神障がい者に対し、障がい者総合支援法によるサービス利用計画に基づき、居宅介護従事者を派遣し、利用者が可能な限り自宅で日常生活が営めるよう身体介護、家事援助等

を通じて在宅福祉サービスの提供に努めた。

また、関係市町村や地域の保健・医療・福祉サービスと綿密な連携を図り総合的なサービス提供に努めた。

	平成 30 年度	平成 29 年度	増 減
延利用者数	325 人	373 人	△48 人
延利用回数	2,117 回	2,688 回	△571 回
月平均利用人数	27.1 人	31.1 人	△4.0 人
月平均利用回数	176.4 人	224.0 人	△47.6 人

③相談支援事業（訪問介護課・つみき園）

障がい者（児）の抱える課題解決や、適切な福祉サービス利用の効果的な資源を紹介し、サービスが有効利用されている事を継続的に評価して見直しを行った。

適切なサービスに向けて、ケアマネジメントを行うことにより、サービス利用計画及びモニタリングを行い障がい者（児）の自立した日常生活や社会生活への支援に努めた。

		平成 30 年度	平成 29 年度	増 減
障 が い 者	利用計画	141 件	150 件	△9 件
	月平均	11.8 件	12.5 件	△0.7 件
	モニタリング	311 件	270 件	41 件
	月平均	25.9 件	22.5 件	3.4 件
	認定調査	17 件	15 件	2 件
障 が い 児	利用計画	167 件	159 件	8 件
	月平均	13.6 件	13.0 件	0.6 件
	モニタリング	112 件	92 件	20 件
	月平均	9.3 件	4.3 件	5.0 件

(3) 通所介護事業

平成 30 年度の介護保険報酬改正により、通所介護では基本報酬のサービス提供時間区分がより細かく見直しがされ、報酬単価が減額された。

また、各市町村で事業運営を実施する「介護予防・日常生活支援総合事業」（以下、総合事業）において、岩見沢市の基本報酬単価は大きく減額され、厳しい運営状況の中、職員体制、サービス管理体制及び運営形態等を検証し、各デイサービスセンターの今後のあり方について岩見沢市と検討しながら事業を推進した。

①介護予防・生活支援サービスと関係機関との連携

介護予防・生活支援サービスに伴う総合事業と地域密着型サービスの要支援利

用者に係る報酬単価が減額され、減収となった。

このことから、特に岩見沢市栗沢支所と連携を強化し、地域包括支援センター等の関係機関と情報の共有及び連携を図るとともに、既存の連絡会等も活用しながら、地域連携の拠点となるようネットワークづくりに努めた。

②機能別・個別的なサービスの提供

栗沢デイサービスセンターでは、心身機能に係る個別的サービスを機能訓練指導員が中心に実施し、在宅生活に直結する生活行為の訓練として、マシンの使用、起居動作に係る立位・座位運動や歩行訓練等を行った。

また、美流渡デイサービスセンターでは、生活に係る個別的サービスとして、定期的なショッピングの実施や、週2回の移動買い物サービスの利用等、生活する上で困難となっていることに対応し支援した。

③人材の確保

安定した介護サービスを実施するには人材確保が必要であるが、人手不足が深刻化している中、介護サービスを充実するため人材の定着に取組み、育成、雇用管理、手当等、処遇の改善やキャリアパス（資格や経験年数等に応じて職位・職責を設け評価する）に力を入れ、働きやすい職場環境づくり等を実践し、介護員の雇用管理体制の強化に努めた。

④ 栗沢デイサービスセンター

- 営業日数（月曜日～金曜日）254日（土曜日）51日
- 通所利用者数延（月曜日～金曜日）4,715人（土曜日）726人
- 1日平均利用者数（月曜日～金曜日）18.6人（土曜日）14.2人
- 職員配置数（月曜日～金曜日）9人（土曜日）6人

⑤ 美流渡デイサービスセンター

- 営業日数（月曜日、水曜日、金曜日）147日
- 通所利用者数延 862人
- 1日平均利用者数 5.9人
- 職員配置数 3人

(4) 子ども発達支援センターつみき園

①通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）の実施

発達に遅れや障がいのある乳幼児・児童に対し、定期的な通園を通して、基本動作の習得や日常生活に必要な能力の発達を促すことを目的に、きめ細やかな療育支援提供の充実に努めた。

- 登録児数 161人
- 児童発達支援事業 利用者数 延3,714人（一日平均 18.4人）
- 放課後等デイサービス 利用者数 延257人（一日平均 1.3人）
- 合計利用者数延 3,971人（一日平均19.7人）

②子ども発達支援センター事業（三笠市、月形町委託事業）

発達に遅れや心配のある乳幼児・児童やその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受ける事が出来るよう、関係機関への情報提供、地域の発達支援に関わる事業の協力を通して地域の発達支援体制の充実に努めた。

□関係機関連携数 4機関

□発達支援に関する相談件数（延件数）

来所相談 三笠市 5件

月形町 5件

電話相談 三笠市 3件

月形町 5件

合計 18件

8 後援・協賛

事業の後援・共催・協賛により、社会福祉協議会の趣旨普及に努めた。

(1) 後援

行事名等	開催日
2018 男女共同参画市民フォーラム in いわみざわ	6月24日
まちなか朝市 2018	6月23日、7月14日、 8月25日、9月15日、 10月6日、11月17日、 12月15日、 平成31年1月19日、 2月16日、3月16日
第18回ふれあい健康まつり	9月8日
いきいき健康フェア	9月1日
健康と福祉を高めるセミナー	10月5日
平成30年度ひきよせ大会	9月16日
第72回花まつり	平成31年5月11日

(2) 協賛

行事名等	開催日
第33回いわみざわ健康まつり	9月30日